

平成22年 11月分

可部出張所管内	松田 さん
観察月日	連絡事項等
11月20日 15:00～17:00 晴れ 気温17℃	<p>今回は新太田川橋上流側右岸の河川敷を歩いて回りました。距離票では17.0～18.5k付近にあたります。17k付近に流路が左岸付きから右岸付きに切り替わる大きな瀬があり、その上下流に寄州や中州が発達しています。水は清らかに流れ、水位は0.5m(中島ポンプ場前)程度でした。すぐ下流側の16.5k付近にはグラウンドが整備され、週末ともなると野球など大勢の利用が見られるのに対して、この区間では八木用水沿いを散歩される方と挨拶を交わすことはあっても、河原で人の姿を見かけることはほとんどありません。アクセス経路が限られているのと、蛇行区間の内岸側となっており寄州が幅広く発達しているため、川へ近づきにくいのがその理由かと思われます。</p> <p>反面、広い河原には生き物の痕跡が豊富に見られます。確認できた痕跡は、多い順にシカ(足跡、糞)、テン(糞)、イノシシ(掘り返し跡)、タヌキ(足跡)、キツネ(糞)、でした。特にシカの足跡は砂州上に縦横に走っており、この区間の河原を頻繁に利用しているようです。ちょうど背後に隣接する阿武山では、この時期、毎晩のようにシカの鳴き声が響き渡ります。太田川と堤内地との間でこのような大型動物が日常的に行き来できる、環境の連続性が保たれている証といえそうです。</p> <p>鳥類は24種を数えました。この区間の河川環境から特徴的といえるのは、イカルチドリ(つがいとみられる2羽で砂礫河原を往来)、イソシギ、カワセミ(この2種は河川縦断方向に頻繁に往来)、ダイサギ、アオサギ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワウなど水辺の野鳥が多いことが挙げられます。またヒヨドリ、メジロ、カワラヒワ、ウグイス、ホオジロなどの森林や草地性の野鳥も河畔林やツルヨシ群落などの河川敷植生によく現れます。さらに今月に入り、これらの留鳥にジョウビタキ、シロハラ、ツグミなどの冬鳥が加わるようになりました。</p> <p>今回のモニター区間は太田川中流域の中でも最も規模の大きな河原の一つで、自然度も保たれている区間と思われます。一方、流路が阿武山を回り込むように大きく屈曲する箇所であるため、防災上の要所ともなっています。すぐ上流側では、平成23年度完成を目指した八木地区の河道掘削工事が進められていますので、これからの川の姿にも注目していきたいと思えます。</p>  <p>川の流路が左岸側から右岸側に切り替わる箇所(17.0k付近)</p>



中島ポンプ場前付近に発達する砂礫州



シカの足跡



背後には阿武山が控え、河川との境界には竹林や、ツルヨシ、カナムグラなどのやや安定した植生帯がある。

管理第一課からの意見・感想等

いつもながら動植物の情報を頂き有り難うございます。
シカ、テン、イノシシ、タヌキ、キツネと色々な動物が河原に来ていますね。
また、鳥類においてはこれから寒くなるとカワセミ等の川辺で見られる留鳥のほかにかモ類等の渡り鳥が見られるようになりバードウォッチングを行うにはよい季節になりましたね。
次回の報告を、お待ちしております。